

平成27年度 自己評価結果公表シート

学校法人清明学園

清明幼稚園

1. 本園の教育目標

<p>★ 子どもたちへ</p> <ol style="list-style-type: none">① たくましい体と思いやりのある心を持つ② 相手を理解し受け止めながら、自分の気持ちを伝えられるようになる③ 正しい考えを持ち、心が豊かな人間になる④ 気持ちの良いあいさつができるようになる <p>★ 園としての運営目標</p> <ol style="list-style-type: none">① こども中心・あそび中心の『こどもの城』を目指す～遊びが子どもを育てる。② 心温まる愛に包まれた保育を！～教師は子どもの心のサポーター（引っ張るより後押し）③ 立ち止まらず、先に目を向け意欲的に何事にも取り組む。④ 家庭との連携を怠らず、『共育』の推進を図る。（親の心の声を聞く努力＝信頼関係）⑤ 社会人、企業人としての自覚と言動。

2. 重点目標

こども中心あそび中心の『こどもの城』として、子どもの育ちの基本である『遊び』に没頭できる環境を重視することにより、集中力、協同性、意欲、創造性、忍耐等の様々な育ちを保障する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
保育方針の保護者理解を深める	見学者や在園児の保護者に園長だよりやQ&A、様々な媒体によって、遊びの大切さや自然とのかかわり、保育の質や今後について細かく伝えてきた。また、教師自身の研修機会も増やし学びを深めたことで、一致した運営ができたと考える。
子どもの様子を踏まえ、子どもの心に寄り添った指導計画を作成する。	それぞれの個性ややる気に合わせるためには、臨機応変の対応が大切である。そのためには、計画通りいくことを求めるよりも遊び込んでいるかの環境設定への配慮や、周りとの関係性などに注意を払って保育をしてもらってきたことで、子ども自身で考え行動できるためのサポートができていた。
教育の質の向上のため、園内研究を充実させる。	園庭が変わることは、まさに保育が変わることと捉え、園内研究を外部講師によって深めたり、道外の園視察や研修に参加したりして、積極的に本園の保育の方向性を確立する努力を行った。
自然体験による育ちの支援	8月に行った園庭整備により、教職員の保育に対する捉え方がさらに“こども中心”に考えられるようになり、子どもの運動機能向上や情緒安定に大きく寄与した。また、それと連動し例年同様畑活動や親子等参加の冒険クラブ協力の自然体験活動で良質な経験の機会を提供できた。

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

年度当初から、保育の在り方について大きな改革を行うべく様々な学ぶ機会を教師陣に持ってもらったが、それにより、過去にとらわれない様々な保育観やアイデアが出ることで、実際に生活している子どもたちの自主・自立・意欲・創造を育てることにつながった。また、年度の途中からは、幼保連携型認定こども園になることから、乳児の育ちについても時期乳児部主任予定者と確認しながら、担任教師もさつなえのもりでの実習を経て理解を深めた。今後、乳幼児が生活するこども園になることで、さらに社会的役割や存在意義が増すため、その重責を全うするために、全保育教諭が保育の質について理解し、保護者の信頼をさらに勝ち得る保育集団になるよう努力する。そのために、日頃より様々なことに疑問を持ち、自ら考え言動する能動的力を発揮すること、自ら困難を乗り越え解決していく姿勢を忘れぬ保育運営を心掛ける。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
特別支援教育	支援の必要な幼児への対応のため人的環境を整え、効率と効果について考える。また各関係機関との連携を図り、保護者や幼児へ細かい対応を行う。
乳幼児の連携	保育教諭同士の情報共有や保育の連携の進め方について。

6. 関連事業

<ol style="list-style-type: none">1. 延長保育の実施(早朝保育も実施)<ul style="list-style-type: none">・ 保育日数～240日・ 1日平均～41.5人・ 登録者数～198人・ 延利用者数～9,972人2. 地域への開放、子育て支援事業の実施 「かんがるーの日」～年9回 「あそぼうDAY」未就園児教室登録者対象～年各1回3. 未就園児教室「つぼみ組」火・木それぞれ～年19回ずつ 「さくらんぼ組」～年16回4. 幼小の連携～北光・苗穂小学校との交流
